

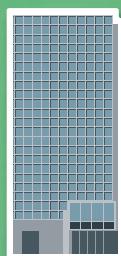
証券コード：9119

第129期 中間 株主通信

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日



飯野海運株式会社





代表取締役社長

當 倉 裕 己

|| 当中間期の事業環境について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第129期中間株主通信（2019年4月1日から2019年9月30日まで）をお送りするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当中間期（第2四半期連結累計期間）の世界経済は、米国の通商政策に起因する米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題を巡る混乱継続の影響等により、減速傾向を強めました。わが国経済は、内需は堅調に推移しましたが、海外経済の弱含みや各国政策に起因する不確実性の高まりから、力強さに欠ける展開が継続しました。

|| 当中間期の取り組み・業績について

海運業において、オイルタンカー市況やLPGキャリア市況は長距離輸送需要によるトンマイルの伸長等により高水準で推移したものの、当社グループが主力とするケミカルタンカー市況は、中東域での地政学的リスクの上昇や世界経済の減速の影響等により総じて低調に推移しました。そのような中、オイルタンカーにおいては支配船腹を長期契約に継続投入しているものの、入渠船があった影響等から損益が悪化しました。大型ガスキャリアにおいては既存の中長期契約への継続投入により安定収益を確保したことに加え、LPGキャリアの一部が好市況の影響を享受しました。ケミカルタンカーにおいては、中東域から欧州向け及びアジア向けの数量輸送契約やスポット貨物の集荷、効率的な配船により稼働の維持に努めましたが、低調な市況による影響を避けることはでき

ませんでした。ドライバルクキャリアにおいては、数量輸送契約を中心にしつつ市況上昇のタイミングを捉えた効率配船に努めた結果、運航採算は堅調に推移しました。

不動産業において、企業の人員拡大等への対応に伴うオフィス拡張、統合移転需要により、新築及び築浅大規模ビルを中心に入居スペースの減少が進み、既存ビルを含めた全体の空室率が低下したこと等から、都心のオフィスビル賃貸市況は上昇傾向で推移しました。当社グループでは、所有する飯野ビルディングにおいて、一部事務所テナントの移転に伴い空室期間が生じ、減益となりましたが、新規テナントの入居も開始され、収益は改善に向っております。また、新橋田村町地区市街地再開発事業では、新築建物の基礎工事に着手しており、現在のところ2021年6月末の竣工を予定しております。

以上の結果、売上高は449億49百万円、営業利益は11億11百万円、経常利益は7億83百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億99百万円となりました。当中間期の配当につきましては、長期的な企業価値の向上によって安定配当を継続するという当社の基本方針に基づき、1株当たり普通配当5円とさせていただきます。また、期末配当金につきましては、前回予想と同じ5円、通年で10円を予定しておりますが、当社としては引き続き通期業績の改善に向けて努力すると共に、今後の利益水準及び財政状態や、株主還元の更なる強化という観点を総合的に勘案して決定する所存です。

今後とも株主の皆様のご期待にお応えできるよう精励いたしますので、引き続き倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目次

- | | |
|--------------|----------|
| 1 株主の皆様へ | 7 連結財務諸表 |
| 2 ビジネスレポート | 9 会社概要 |
| 5 ニュース&トピックス | 10 株式情報 |
| 6 連結財務ハイライト | |



外航海運業

売上高比率

76.6%

売上高
営業損失

344億65百万円
18百万円



オイルタンカー

オイルタンカー市況は、極東地域を中心とした製油所の定期修繕に伴う不需用期に入ったこと等から低迷していましたが、8月以降、西アフリカ積み等の遠距離でのトンマイルの伸長に加え、サウジアラビアの石油施設への攻撃及び米国によるイラン産原油の輸送に従事した中国船社への制裁等により第2四半期末にかけて高騰しました。

当社グループのオイルタンカーにおいては、支配船腹を長期契約に継続投入しているものの、入渠船があった影響等から、当第2四半期連結累計期間においても損益が悪化しました。



KOHO I 301,045DWT(オイルタンカー)

大型ガスキャリア

LPGキャリア市況は、急激な上昇の調整局面があったものの、米中貿易摩擦等により引き続き長距離輸送需要があり、東西価格差を利用した裁定取引が堅調なことから、高水準で推移しました。LNGキャリア市況は、夏場の電力需要により一定の輸送需要がみられ、堅調に推移しました。

当社グループの大型ガスキャリアにおいては、LPGキャリア及びLNGキャリア共に既存の中長期契約へ継続投入することで安定収益を確保したことに加え、LPGキャリアの一部が好市況の影響を享受しました。



SUMIRE GAS 82,416m³
(大型ガスキャリア)

ケミカルタンカー

ケミカルタンカー市況は、中東域での地政学的リスクの上昇や世界経済の減速の影響等により総じて低調に推移しました。

当社グループのケミカルタンカーにおいては、当社の主要航路である中東域から欧州向け及びアジア向けの数量輸送契約に加え、スポット貨物の取り込みにより稼働の維持に努めました。当社と米国オペレーターとの合併事業でも、数量輸送契約やスポット貨物の集荷、効率的な配船により稼働の維持に努めましたが、低調な市況による影響を避けることはできませんでした。



CHEMROAD ORCHID 35,703DWT
(ケミカルタンカー)

ドライバルクキャリア

ドライバルクキャリア市況は、貿易摩擦やブラジルの鉱山ダムで発生した事故等の影響で、4月以降、軟調に推移しました。しかしながら、第2四半期には南米からの鉄鉱石輸出量の回復、また穀物の輸出量増加に伴い、市況は大西洋から回復に転じ、太平洋でも荷動きの増加によりそれに追隨する動きとなり、上半期後半は総じて堅調に推移しました。

当社グループのドライバルクキャリアにおいては、石炭専用船とチップ専用船については順調に稼働しました。ポストパナマックス船については、市況上昇のタイミングを捉えた配船や数量輸送契約に投入した結果、運航採算は堅調に推移しました。ハンディ船についても、契約貨物を中心としつつ、市況上昇局面を捉えた効率配船に努めました。



PEGASUS ISLAND 88,876DWT
(ドライバルクキャリア)

内航・近海海運業

売上高比率

10.2%

売上高
営業利益

45億86百万円
2億28百万円



小型ガス キャリア

内航ガス輸送の市況は、LPG需要が例年通り夏の不需要期に突入し出荷は低調に推移したものの、製油所間転送需要は底堅く、堅調に推移しましたが、業界全体としては修繕期間中の洋上ストレージ需要並びに船員不足に伴う稼働隻数の減少も影響し、需給は均衡して推移しました。当社グループの内航ガス輸送は、LPGの季節的要因による輸送量減少と石油化学ガス出荷プラントの定期修繕等による出荷量減少の影響を受けましたが、中長期契約に基づく安定的な売上確保と効率配船の実施により、採算を維持しました。しかしながら、入渠工事が重なった影響等から、当第2四半期連結会計期間においては損益が悪化しました。

近海ガス輸送の市況は、主要貨物であるプロピレン、塩化ビニルモノマーの国内生産量はプラントの定期修繕等に伴い、出荷が低調に推移したため、海上輸送量は軟調に推移しました。一方で5,000m³型高圧ガス船において余剰が生じたため、当社が主力とする3,500m³型高圧ガス船の市況も軟化しました。当社グループの近海ガス輸送は、東南アジアの荷動きは軟調且つ市況下落の影響を受けましたが、これまでの安全運航への評価もあり、安定した貸船料収入を維持することができました。



太華山 1,550.74m³(エチレンキャリア)

不動産業

売上高比率

13.2%

売上高
営業利益

59億67百万円
9億1百万円



不動産賃貸/ 不動産関連事業

都心のオフィスビル賃貸市況は、企業の人員拡大等への対応に伴うオフィス拡張、統合移転需要により、新築及び築年数の経過していない大規模ビルを中心に入居スペースの減少が進み、既存ビルを含めた全体の空室率は低下したこと等から上昇傾向で推移しました。当社グループの賃貸ビルにおいては、所有する飯野ビルディングは一部事務所テナントの移転に伴い、空室期間が生じ、減益となりましたが、新規テナントの入居も既に開始され、収益は改善に向かっており、順次満室稼働となる見込みです。その他の各所有ビルにおいては順調な稼働を維持しました。また、新橋田村町地区市街地再開発事業では、新築建物の基礎工事に着手しており、現在のところ2021年6月末の竣工を予定しています。

貸ホール・貸会議室においては、多数の競合施設がある中、厳しい顧客獲得競争が続きました。当社グループのイノホール&カンファレンスセンターにおいては、セミナー、講演会、映画試写会といった催事の積極的な誘致に加え、映像設備の更新が新規顧客獲得へつながら、高稼働を維持しました。

不動産関連事業のフォトスタジオ事業においては、広告需要が引き続き堅調に推移しました。当社グループのフォトスタジオ事業を運営する株式会社イノ・メディアプロにおいては、主力のスタジオ部門の稼働が堅調に推移すると共に、プロダクション部門では大型の海外案件を獲得し、安定した収益を確保しました。



飯野ビルディング



運航船腹

(2019年9月30日現在)

船種	保有形態	社 船		用 船		合 計	
		隻 数	重量トン数	隻 数	重量トン数	隻 数	重量トン数
外航海運業	オイルタンカー	2	601,911	0	0	2	601,911
	ケミカルタンカー	14	500,055	29	954,510	43	1,454,565
	大型ガスカリヤ	16	1,061,690	1	55,134	17	1,116,824
	ドライバルクキャリア	2	166,909	16	767,420	18	934,329
内航・近海運業	小型ガスカリヤ	18	32,528	9	31,882	27	64,410
合 計		52	2,363,093	55	1,808,946	107	4,172,039

(注1) 社船にはグループ会社が所有する船腹を含みます。また、重量トン数は共有相手持分を含めて記載しております。

(注2) 用船には短期用船を含みます。

賃貸ビル

(2019年9月30日現在)

名 称	所在地・延床面積 (m ²)
飯野ビルディング	東京都千代田区内幸町 103,826.88
東京富士見ビル	東京都千代田区富士見 10,674.86
飯野竹早ビル	東京都文京区小石川 4,736.37
汐留芝離宮ビルディング	東京都港区海岸 32,702.37
NS虎ノ門ビル	東京都港区西新橋 9,877.04
合 計	161,817.52

(注1) 東京富士見ビル及び汐留芝離宮ビルディングは、他社と共有しており、延床面積には共有相手持分を含めて記載しております。

(注2) NS虎ノ門ビルは、区分所有であり、延床面積には他の区分所有者の所有面積も含めて記載しております。

主なグループ会社

(2019年9月30日現在)

外航海運業	船舶の運航及び貸渡	Chemroad Echo Navigation S.A.
	船舶管理	イノマリンサービス(株)
	海運仲立業及び舶用品売買	イノエンタープライズ(株)
内航・近海運業	運航・貸渡及び船舶管理	イノガストランスポート(株)
不動産業	ビル管理	イノ・ビルテック(株)
	倉庫業	泰邦マリン(株)
	フォトスタジオ	(株)イノ・メディアプロ

News & Topics

ニュース&トピックス

イイノホールにて創立120周年記念式典実施

2019年7月1日、当社は創立120周年を迎え、8月にはイイノホールにて記念式典を実施いたしました。式典では當舎代表取締役社長が当社グループ役員を前に次の120年に向けた思いを語り、役員一同、未来への気持ちを新たにしました。

今後も当社グループは環境に配慮しながら安心・安全・高品質のサービスを提供し、ステークホルダーの皆様にも愛される企業を目指し挑戦を続けてまいります。



海難事故対応訓練実施をはじめとした安全への取り組み

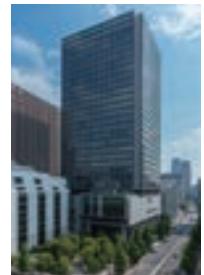
当社グループにおいては、事業を推進するにあたり安全を経営上の最優先課題としております。その一環として2019年9月13日、当社グループの船舶管理会社イイノマリンサービス株式会社と合同で、海難事故対応訓練を実施しました。訓練で得た知見や改善意見などをグループ全体で共有することにより、万一に備えた緊急対応体制をより強固なものに整備し、当社グループは今後も安全確保の徹底に努めてまいります。



DBJ Green Building 認証取得

2019年3月29日、当社が所有する飯野ビルディングにおいて「国内トップクラスの卓越した『環境・社会への配慮』がなされたビル」として株式会社日本政策投資銀行よりDBJ Green Building認証で最高ランク5つ星(☆☆☆☆☆)を取得しました。

当制度は、①建物の環境性能、②テナント・利用者の快適性及び多様性、③環境・防犯・防災リスクマネジメント、④周辺環境・コミュニティへの配慮、⑤ステークホルダーとの協働及びIR活動、の5つの視点から総合的に、社会・経済に求められる不動産を評価・認証するものです。また同時に、当社が所有する汐留芝離宮ビルディングにおいても、同制度において4つ星(☆☆☆☆)を取得しました。



任意の指名・報酬諮問委員会を設置

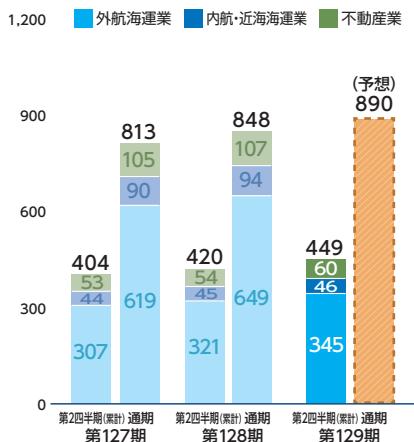
当社は、2019年9月26日開催の取締役会において、取締役会の諮問機関として任意の「指名・報酬諮問委員会」を設置することを決議しました。取締役候補等の指名や取締役の報酬等については、今後「指名・報酬諮問委員会」の審議を経ることで、その手続等の客観性・透明性・公正性を高め、取締役会の監督体制及び説明責任を強化し、コーポレート・ガバナンス体制をさらに充実させてまいります。

Consolidated Financial Highlights 連結財務ハイライト



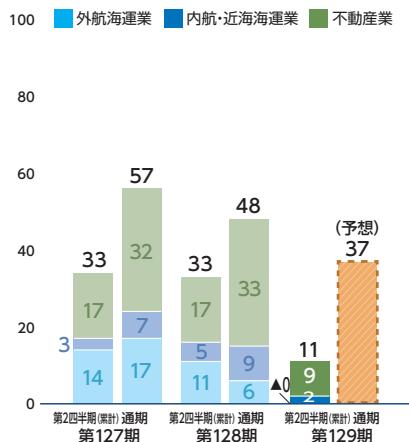
売上高

(単位:億円)



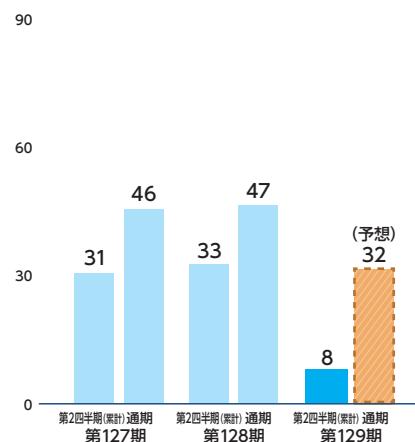
営業利益

(単位:億円)



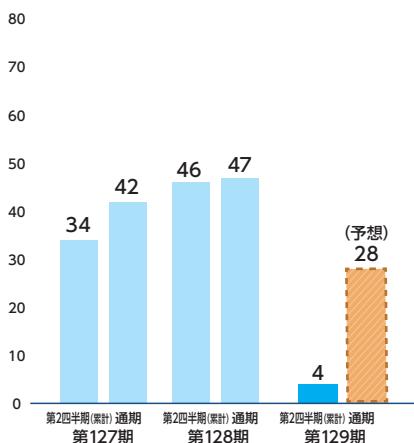
経常利益

(単位:億円)



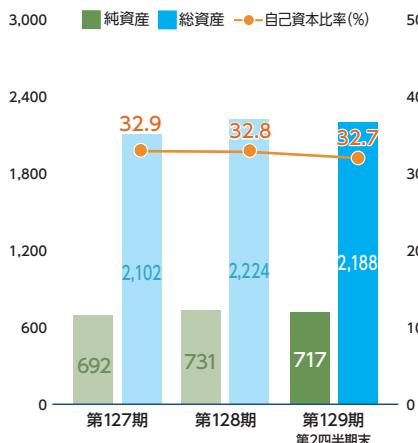
親会社株主に帰属する純利益

(単位:億円)



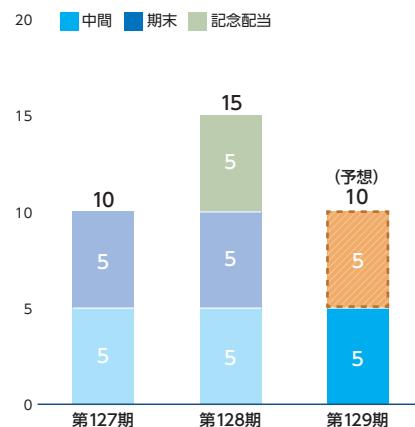
純資産/総資産(自己資本比率)

(単位:億円)



配当金

(単位:円)



(注) 表示金額未満を四捨五入しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科 目	前連結会計年度末 (2019年3月31日現在)	当第2四半期連結 会計期間末 (2019年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	24,365	24,098
固定資産	198,070	194,702
有形固定資産	175,326	172,913
無形固定資産	579	552
投資その他の資産	22,165	21,237
資産合計	222,435	218,801
負債の部		
流動負債	51,607	45,802
固定負債	97,752	101,336
負債合計	149,359	147,138
純資産の部		
株主資本	67,801	67,142
資本金	13,092	13,092
資本剰余金	7,613	7,613
利益剰余金	50,341	49,683
自己株式	△3,245	△3,245
その他の包括利益累計額	5,127	4,358
その他有価証券評価差額金	3,341	3,139
繰延ヘッジ損益	971	531
為替換算調整勘定	815	687
非支配株主持分	149	162
純資産合計	73,077	71,662
負債純資産合計	222,435	218,801

① 資産・負債

資産合計は、主に減価償却費の計上により前期末と比べ36億34百万円減少し、218億801百万円となりました。負債合計は、主に借入金の減少により前期末と比べ22億20百万円減少し、147億138百万円となりました。

② 営業利益

海運業においては、LPGキャリアの一部が好市況の影響を享受しましたが、オイルタンカーの入渠費用による営業費用の増加や低調なケミカルタンカー市況の影響を避けることはできませんでした。不動産業においては、所有する飯野ビルディングで一部事務所テナントの移転に伴い空室期間が生じた影響等から、営業利益は11億11百万円(前年同期比21億91百万円の減益)となりました。

③ 経常利益

受取配当金や持分法による投資利益は増加したものの、営業利益の減益に加え、円高進行による為替差損の計上等により、経常利益は7億83百万円(前年同期比24億86百万円の減益)となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	41,968	44,949
売上原価	35,319	40,283
売上総利益	6,649	4,666
販売費及び一般管理費	3,347	3,555
営業利益	3,302	1,111
営業外収益	851	731
営業外費用	883	1,058
経常利益	3,270	783
特別利益	2,151	8
特別損失	411	148
税金等調整前四半期純利益	5,010	644
法人税等	273	245
四半期純利益	4,737	399
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	108	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,630	399

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円、単位未満四捨五入)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自 2018年4月 1 日 至 2018年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2019年4月 1 日 至 2019年9月30日)
	営業活動による キャッシュ・フロー	6,233
投資活動による キャッシュ・フロー	△8,881	△2,606
財務活動による キャッシュ・フロー	1,928	△2,266
現金及び現金同等物に 係る換算差額	236	△142
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△485	85
現金及び現金同等物の 期首残高	10,536	9,826
現金及び現金同等物の 四半期末残高	10,051	9,911

● キャッシュ・フロー分析 🔍

- 「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、主に減価償却費の計上により50億99百万円のプラスとなりました。
- 「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に船舶や不動産への設備投資を中心とした有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出が、老齢船を中心とした有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入を上回ったことにより26億6百万円のマイナスとなりました。
- 「財務活動によるキャッシュ・フロー」は主に長期借入金の返済による支出が短期借入金の純増額及び長期借入れによる収入を上回ったことにより22億66百万円のマイナスとなりました。

詳細につきましては当社ホームページよりご覧いただけます。



飯野海運 IR



<https://www.iino.co.jp/kaiun/ir/>

(単位：億円)

科目	第127期		第128期		第129期	
	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期(予想)
売上高	404	813	420	848	449	890
海運業	352	709	367	743	391	—
外航海運業	307	619	321	649	345	—
内航・近海海運業	44	90	45	94	46	—
不動産業	53	105	54	107	60	—
営業利益	33	57	33	48	11	37
海運業	16	24	16	15	2	12
外航海運業	14	17	11	6	△0	—
内航・近海海運業	3	7	5	9	2	—
不動産業	17	32	17	33	9	25

(注) 表示金額未満を四捨五入しております。

会社概要

商号	飯野海運株式会社 IINO KAIUN KAISHA, LTD. (略称：IINO LINES)	
創業	1899 (明治32) 年7月	
資本金	13,091,775,488円	
主要事業内容	海運業、不動産業	
本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号飯野ビルディング	
事業所	海外 ドバイ 海外現地法人 シンガポール、ロンドン、コネチカット、ヒューストン	
グループ会社	連結対象子会社	58社
	持分法適用関連会社	5社
	連結対象外関係会社	8社
	合計	71社
上場取引所	東京(第一部)、福岡	

取締役及び監査役並びに執行役員

取締役及び監査役

代表取締役社長	當 舍 裕 己
代表取締役	岡 田 明 彦
取締役	小 園 江 隆 一
取締役	神 宮 知 茂
取締役	荒 木 俊 雄
取締役(社外)	遠 藤 茂
取締役(社外)	大 江 啓
取締役(社外)	吉 田 康 之
監査役(常勤)	橋 村 義 憲
監査役(社外)	堀之内 博 一
監査役(社外)	山 田 義 雄

執行役員

社長執行役員	當 舍 裕 己	
専務執行役員	岡 田 明 彦	人事部管掌、経理部管掌、ビル事業部管掌、不動産開発企画部管掌、経営企画部担当、業務管理部担当、SR広報部担当及びイノホール(株)取締役社長
専務執行役員	荒 木 俊 雄	海務部管掌及びイノマリンスービス(株)取締役社長
専務執行役員	佐 藤 仁	イノガストランスポート(株)取締役社長
常務執行役員	小 園 江 隆 一	油槽船部管掌、ガス船部管掌、ケミカル船第一部管掌、ケミカル船第二部管掌、海外戦略管掌、専用船舶担当及び不定期船舶担当
常務執行役員	神 宮 知 茂	経理部担当、イノマネジメントデータ(株)取締役社長及び飯野システム(株)取締役社長
執行役員	長谷川 陽 一	油槽船部担当及びガス船部担当
執行役員	吉 川 貢 市	事業開発推進部担当及び海外戦略担当
執行役員	井 上 徳 親	海務部担当及びイノマリンスービス(株)常務取締役
執行役員	藤 村 誠 一	ケミカル船第一部担当、ケミカル船第二部担当、ケミカル船第一部長委嘱、ケミカル船第二部長委嘱及びIINO SINGAPORE PTE.LTD.取締役社長
執行役員	大 谷 祐 介	ビル事業部担当、不動産開発企画部担当及びイノエンタープライズ(株)取締役社長
執行役員	佐 藤 靖 男	人事部担当及び人事部長委嘱

(注) 当社は、上場している各証券取引所に対して、取締役 遠藤茂、取締役 大江啓、取締役 吉田康之並びに監査役 堀之内博一、監査役 山田義雄の各氏を独立役員として届出おります。



株式の状況

発行可能株式総数	440,000,000株
発行済株式の総数	111,075,980株
株主数	8,427名

所有者別株式分布状況



株価及び出来高の推移



インフォメーション

「特別口座」で株式をお持ちの株主様へ

株券電子化前に証券保管振替機構(ほふり)へ預託されなかった株主様には、当社の株主名簿管理人である三井住友信託銀行に「特別口座」を開設しております。特別口座は、株主様の権利を保全するための暫定的な口座であり、この特別口座に記録された株式は、証券会社の取引口座に振り替えなければ売買できませんので、お早めに証券会社の取引口座への振替をお願いいたします。

特別口座からの振替のお手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行又はお取引先の証券会社へお問い合わせください。

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東京海上日動火災保険株式会社	5,264	4.97
飯野海運取引先持株会	4,945	4.67
株式会社みずほ銀行	4,941	4.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,922	3.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,838	3.62
三井住友信託銀行株式会社	3,622	3.42
日本生命保険相互会社	2,256	2.13
トーア再保険株式会社	2,253	2.12
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	2,105	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,797	1.69

(注1) 持株数は、千株未満を切捨てております。

(注2) 大株主及び持株比率からは、自己株式(5,269,090株)を除いております。

マイナンバーについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

- **マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先**
- 証券口座にて株式を管理されている株主様
 - ➔ お取引の証券会社
- 証券会社とのお取引がない株主様
 - ➔ 三井住友信託銀行 証券代行部 0120-782-031

株式関連業務におけるマイナンバーの利用

- なお、当社は、法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。

会社概要等につきましては当社ホームページよりご覧いただけます。

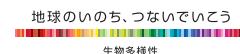
<https://www.iino.co.jp/kaiun>

飯野海運



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
定時株主総会の基準日	毎年3月31日 なお、上記のほか必要があるときは、 予め公告いたします。
配当基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日（中間配当実施の場合）
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先	0120-782-031(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告 ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行うこととします。 当社の公告はホームページに掲載しております。 https://www.iino.co.jp/kaiun
飯野海運株式会社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング 電話 (03)6273-3069



環境保全のため植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

WEBサイトのご紹介

当社では企業活動に関するお知らせや資料などをWEBサイトに公開しており、随時最新版が同サイトで確認できるようになっております。



飯野海運 <https://www.iino.co.jp/kaiun>



トップページ



IR情報トップ